

研究・調査報告書

報告書番号	担当
600	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
Effect of Ingestion of the Japanese Persimmon 'Saijo' Fruit on Ethanol Levels in the Blood of Humans and Rats 日本のカキ'西条'果実摂取がヒトやラットの血中のエタノール濃度に及ぼす影響	
執筆者	
ITAMURA Hiroyuki, NIMURA Masayuki, SHIMOSAKI Shunsuke, NAKATSUKA Akira, ANDO Haruka, NAGAMATSU Hiroko, TSURUNAGA Yoko, ASANO Yujiro, ARAKAWA Osami, FUNAKI Kenji, MATSUMOTO Toshikazu, KOJIMA Yasunori, UEMURA Eisuke, MURAKAMI Naoyuki, SUN Ningjing, NIMURA Masayuki, KATSUBE Takuya, SUGINAKA Katsuaki, KAMEI Tsutomu, MURATA Koji, KAMEI Tsutomu, KAMEI Tsutomu, MATSUZAKI Hajime	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
日本食品保蔵科学会誌 Vol.37 No.4 Page.155-165 (2011)	
キーワード	
飲酒、カキ、血中エタノール濃度	
要 旨	
<p>日本の渋柿である「西条柿」はアルコール過剰摂取後の体調不良を改善する生物活性物質を含むと考えられている。ヒトでアルコール摂取前後に柿（果実、干し柿、柿エキス）を食べさせて、血中アルコール濃度への影響を調べた。またラットでアルコール摂取前に柿エキスを投与して血中アルコール濃度、抗酸化活性、フラボノイド量を調べた。アルコール摂取前の柿摂取によって、アルコール摂取 1 時間後のヒトの血中アルコール濃度が対照よりも顕著に減少した。これは林檎を摂取した場合に比べて、より効果的であった。ラットでも柿エキス摂取後に同様な傾向が見られたが、顕著ではなかった。アルコール摂取後の柿摂取では、ヒトにおいて血中アルコール濃度への影響は有意な差異はなかった。また、ラット血中において抗酸化活性およびフラボノイド量の増加は見られなかった。以上より、アルコール摂取前に柿を摂取することでアルコール摂取による血中アルコール濃度が減少することがわかった。柿のタンニン単独あるいは他の柿成分が共存することで効果があると思われるが、これらの成分は血中には移行せず、胃の中でアルコールを吸収して胃腸の上皮表面からのエタノールの吸収を抑制すると考えられる。</p>	